

## ネギアザミウマが多発傾向

～ 防除の徹底で被害を防止しましょう ～

### 1. 現在までの発生状況と今後の発生予想

7月1半旬のねぎ（夏どり）の巡回調査（全県10地点）におけるネギアザミウマの被害株率は33.0%（平年21.7%）で高く、平年を大きく上回っている（図-1、2）。

7月2日に仙台管区气象台から発表された東北地方1か月予報によると、気温は高いと予報されている。

以上のことから、今後もネギアザミウマによる被害の増加が懸念される。

### 2. 防除対策

1) 本害虫が多発しているほ場では、表土中の蛹からの羽化や葉肉内の卵のふ化により、薬剤による防除後も発生密度が低下しない場合があるので、7～10日間隔で薬剤を散布し、発生密度の低減を図る。薬剤の選定は収穫前日数に注意して行う（表-1）。また、抵抗性出現回避のため、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。

2) 薬液には展着剤を必ず加用し、葉先から株元まで薬液が十分付着するように畝の両側から丁寧に散布する。

### 3. 資料

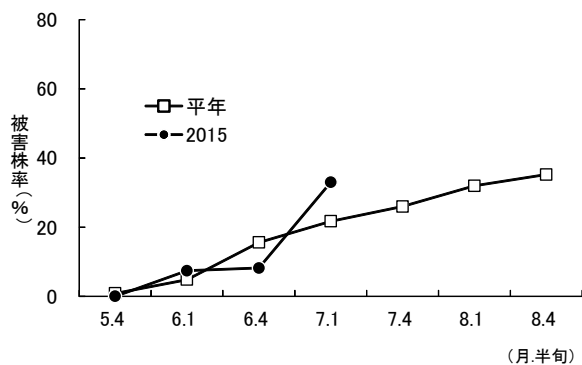


図-1 巡回調査における被害株率の推移（全県）



図-2 被害葉

表－1 ネギアザミウマの防除薬剤

分類	農薬名	希釈倍数 [散布液量]	使用時期	使用回数
a	ダイアジノン乳剤40	700～1,200倍 [100～300L/10a]	収穫21日前まで	2回以内
	マラソン乳剤	2,000～3,000倍 [100～300L/10a]	収穫7日前まで	6回以内
c	アグロスリン乳剤	2,000倍 [100～300L/10a]	収穫7日前まで	5回以内
	アディオソ乳剤	3,000倍 [100～300L/10a]	収穫7日前まで	3回以内
g	アドマイヤー顆粒水和剤	5,000倍 [100～300L/10a]	収穫14日前まで	2回以内
	アドマイヤーフロアブル	2,000～4,000倍 [100～300L/10a]		
	モスピラン顆粒水溶剤	2,000倍 [100～300L/10a]	収穫7日前まで	3回以内
	スタークル顆粒水溶剤	2,000倍 [100～300L/10a]	収穫3日前まで	2回以内
	アルバリン顆粒水溶剤			
	ダントツ水溶剤	2,000～4,000倍 [100～300L/10a]	収穫3日前まで	4回以内
j	スピノエース顆粒水和剤	2,500～5,000倍 [100～300L/10a]	収穫3日前まで	3回以内
	ディアナSC	2,500～5,000倍 [100～300L/10a]	収穫前日まで	2回以内
1	ハチハチ乳剤	1,000倍 [100～300L/10a]	収穫3日前まで	2回以内

a：有機リン剤、c：合成ピレスロイド剤、g：ネオニコチノイド剤、j：マクロライド系剤、1：その他

【 問合せ先 】

秋田県病害虫防除所 TEL 018-881-3660  
 秋田県農業試験場 TEL 018-881-3326  
 掲載HP <http://www.pref.akita.lg.jp/bojo/>